

大会の運営に関する改善案に寄せられた意見等に対する回答

(公社) 日本気象学会理事会

「天気」62巻11月号でお知らせいたしました、「大会の運営に関する改善案」への意見募集に対して、会員の方々から多種多様な意見が寄せられました。会員の皆様のご協力に感謝致します。意見募集の際にも申し上げましたように、寄せられたご意見に対して、個別にお答えすることはできませんが、共通する項目および理事会で重要と判断した項目について、以下に回答を掲載させていただきます。

理事会では頂いた多くの貴重なご意見等を真摯に受け止め、今後の学会運営に関する改善に活かして行きたいと考えております。

回 答

寄せられたご意見等は、大別すると、運営改善に直接関係する項目と、間接的に関係する項目になります。それぞれの項目について、以下に回答いたします。

Ⅰ 大会運営に直接関係する項目

1. 非会員の参加費（聴講費）の値上げ

会員の方々から、非会員の参加費（聴講費）を値上げすることに、反対のご意見を頂いています。そのご意見の多くは、秋季大会の運営改善に要する費用を、非会員の聴講者のみに負担させることに対するご批判、並びにこのような施策が、非会員を学会から遠ざけ、会員予備軍を排除し、新規加入を阻害することになるというものでした。

改善案の説明の不十分さから、会員の皆様に誤解を招いたことについてお詫びいたします。この改善案では、秋季大会運営改善に要する費用を全て非会員の聴講者のみに負担させる意図は全くありません。改善に要する経費は多額に上り、非会員聴講者の参加費の改定のみで賄える額ではありません。改めてこのような改定に至った検討の経緯を以下にご説明いたします。

- ①学会は互助的な組織であり、会員の会費によって運営されていますが、現行の比較的低廉な会費で、学会としての多種多様な事業が行われているのは、会員の有形・無形のボランティア的な活動（役員・各種委員会委員・大会実行委員会委員等としての活動）によって支えられています。また、このような活動によって会員の学会に対する帰属意識も涵養され、このことが学会の一層の発展につながっているものと思われまます。
- ②これまで大会の講演については共著者に会員が入っていれば非会員にも認めてきたところですが、これは、学会等での講演を通じて、気象学会に興味を持っていただき、ひいてはいずれ学会に入会していただける可能性が高いとの判断から行ってきたものです。しかし、現状を点検いたしますと、大会等において継続的に講演を行っておられるにもかかわらず、学会に入会されず、非会員のままである事例も散見されます。このようなことから、学会員の有形・無形の活動を勘案し、今回講演者については、原則学会員であることといたしました。
- ③現在、聴講費については、会員・非会員の区別はありませんが、このような状況では、特に、会費を払って聴講者として参加される会員にとって、会員であるメリットが全くありません。大会に参加される会員の方々の有形・無形の学会あるいは大会開催に対する貢献等を勘案し、聴講費に関して差を設けることといたしました。
- ④今回の聴講費の改定額については、前納の場合、年間2回の大会参加で4000円の増額となり、これは学生会員の会費とほぼ同額、また、当日納付の場合の増額分は、A会員の会費

とほぼ同額となるようになっていきます。会員となることによって、年間12冊の「天気」を購読することも可能となり、より学会に入会いただけるのではないかと考えております。

2. 大会期間と会場数について

会員から、パラレルセッションが増えると、発表の聴講に支障をきたすことから、パラレルセッションの数について現行の4を維持し、大会日数をのばすことで十分な発表時間を確保して欲しいとの要望が寄せられています。

この件に関しまして理事会等における検討では、3日間×4会場より多い枠数（4日間×4会場、3日間×5会場）を確保することとしており、枠数が確保できない場合は運営で工夫をすることとしております。具体的な運営については、各都市により会議場の事情も異なることから、各支部の判断にお任せするというようにしております。

3. 大会運営の完全外注化

「可能であれば大会運営を完全に外注化し、大会事務局の負担の軽減を。」とのご意見を頂いております。完全外注化には多額の費用が発生することから、現在の財政状況では困難であります。また、会員自らが大会運営の一部に参加することで、学会への帰属意識を生じ、学会活動の活性化につながるものと思われれます。

4. 秋季大会の運営に関東地方の機関のサポート

地方での開催に地元機関が関与することで、支部の活性化や、帰属意識の涵養にも貢献していると思われれます。さらに、各種の準備等は地元で密着した会員が実施することが、効率的であります。また、関東地区の会員も多忙であり、春季大会の準備で忙殺されておりますので困難であります。本件については、支部長会議等においても、地元負担を軽減するために、本部事務局の関与を増やす等の対策を検討しています。

II その他の項目

以下の項目は大会運営改善には直接的な関連はありませんが、大会運営にとって重要な項目であることから、併せて回答いたします。

1. 大会予稿集のPDF化

会員から大会予稿集のPDF化の要望が寄せられています。以前、試験的に導入致しましたが、学会参加費等との関連等を精査するために、現在は中止しております。予稿集のPDF化につきましては、会員の利便性を図るため、今後の学会財政の中期的な検討（学会費の改訂、参加費の改訂等）を見つつ、前向きに対処したいと考えております。なお、2003年以降の大会予稿集のアーカイブは、下記にありますのでご利用下さい。<http://www.metsoc.jp/publications/preprints-of-the-msj-annual-scientific-meetings>

2. 春季大会のJpGU 連合大会への組み込み

「春季大会はJpGUの連合大会に組み込み、秋季大会（地方開催）のみを定期大会とする。」というご意見を頂いております。JpGUとの関係は今後の学会のあり方に非常に重要であります。学会としては、JpGUへの協力は今後も継続的に行いますが、学会活動はJpGUの活動にすべて含まれるのではなく、地球惑星科学連合大会では、現在の気象学会が行っている多種多様なセッションを設けることができない恐れがあります。気象学会独自の分野もあることから、当面は春季大会を移行することは考えておりません。また、独自の大会を行うことが、会員の帰属意識を高め、学会の発展の基礎となっているものと考えています。